

## 平成29年度事業報告書

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人中山間地域まちづくり研究所

### 1 事業の成果

インバウンド誘致活動

台湾より修学旅行の予約4校

韓国よりトレッキングツアー140名の予約を取り付けた

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (単位:千円)
経済活動の活性化を図る活動	インバウンド誘致事業	3月1日～3月4日	台湾	2	北広島町民泊家庭40軒	0

#### (2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (単位:千円)
		実施無			0

記載する場合には、活動計算書の「事業費合計額」と全体の合計額を一致させる

注1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載してください。

2 2の(1)については事業毎に事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数、受益対象者の範囲及び人数並びに支出額をそれぞれ記載してください。

3 2の(1)のうち「受益対象者の範囲及び人数」の欄には、具体的な受益対象者及び人数を記載してください。

4 2の(2)については事業毎に事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数及び支出額をそれぞれ記載し、該当する事業を行わなかった場合は記載する必要はありません。

5 用紙の大きさは、日本工業規格A列4でお願いします。

29年度 活動計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人中山間地域まちづくり研究所

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益			
1.受取会費 正会員受取会費 .....			
2.受取寄附金 受取寄附金 施設等受入評価益 .....			
3.受取助成金等 受取民間助成金 .....			
4.事業収益 〇〇事業収益 △△事業収益			
5.その他収益 受取利息 雑収益 .....			
経常収益計			
II 経常費用			
1.事業費			
(1) 人件費 給料手当 法定福利費 退職給付費用 福利厚生費 .....			
人件費計			
(2) その他経費 会議費 旅費交通費 施設等評価費用 減価償却費 支払利息 .....			
その他経費計			
事業費計			
2.管理費			
(1) 人件費 役員報酬 給料手当 法定福利費 退職給付費用 福利厚生費 .....			
人件費計			
(2) その他経費 会議費 旅費交通費 減価償却費 支払利息 .....			
その他経費計			
管理費計			
経常費用計			
当期経常増減額			

Ⅲ 経常外収益			
1. 固定資産売却益 .....			
経常外収益計			
Ⅳ 経常外費用			
1. 過年度損益修正損 .....			
経常外費用計			
経理区分振替額			
当期正味財産増減額		その他の事業は実施無	
前期繰越正味財産額			26640
次期繰越正味財産額			26640

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4でお願いします。

平成29年度 貸借対照表

平成30年3月31日現在

特定非営利活動法人中山間地域まちづくり研究所  
(単位：円)

科目	金額		
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	26640		
未収金			
.....			
流動資産合計			26640
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
車両運搬具			
什器備品			
.....			
有形固定資産計			
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア			
.....			
無形固定資産計			
(3) 投資その他の資産			
敷金			
○○特定資産			
.....			
投資その他の資産計			
固定資産合計			
資産合計			26640
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金			
前受民間助成金			
.....			
流動負債合計			
2. 固定負債			
長期借入金			
退職給付引当金			
.....			
固定負債合計			
負債合計			
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		26640	
当期正味財産増減額			
正味財産合計			26640
負債及び正味財産合計			26640

注1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4でお願いします。

注2 重要性が高いと判断される用途等が制約された寄附金等（対象事業等が定められた補助金等を含む）を受け入れた場合は、「III 正味財産の部」を「指定正味財産」と「一般正味財産」に区分して表示することが望ましい。表示例は以下のとおり。

I 資産の部

1 流動資産

.....

II 負債の部

.....

III 正味財産の部

1 指定正味財産

指定正味財産合計

2 一般正味財産

一般正味財産合計

